

## 上限が直近の採用実績を下回る都道府県への対応について(案)

### 1. 平成28年度上限(試算)における直近の採用実績を下回る県について

- ・ 京都府の平成28年度上限(試算)が、平成27年度上限から21減って243となり、直近(平成26年度)の採用実績である254を11下回っている。(⇒資料1-4)

### 2. 平成27年度の対応と平成28年度に対応しない場合の影響について

#### (平成27年度の対応)

- ・ 京都府の平成27年度上限については、計算値が244のところ、直近(平成25年度)の採用実績が264だったため、特例として20を上乗せした(募集倍率が1.20倍のところ、特例により1.202倍とした)。当該特例は平成27年度限りとした。

※ 報告書の記載:新たな設定方法により算出された都道府県上限の値が、直近の採用実績数を下回るような都道府県については、当該都道府県における地域医療への急激な影響も鑑み、平成27年度に限り、直近(平成25年度)の採用実績数を上限値とする。

#### (平成28年度に対応しない場合の影響)

- ・ 京都府の平成28年度上限(試算)は、上記の特例を行わない場合、直近の採用実績を11下回る。京都府の人口当り医師数を二次医療圏別にみると、京都・乙訓(おとくに)医療圏以外は医師不足地域となっており、上限の削減が当該地域に与える影響が懸念される。(⇒参考1)
- ・ 京都府からは、平成28年度の定員が、特例分の20がなくなり採用実績を下回る場合、医師不足地域の病院の定員も削減せざるを得ないと聞いている\*。

※ 平成27年度は、京都市内の病院を中心に定員を削減することで、医師不足地域の定員を確保したが、特例分の20がなくなれば、医師不足地域であっても相当数を減らさざるを得ないとのこと。

京都府	実績				試算
	H24	H25	H26	H27	H28
計算値				244	243
特例分				+20	
上限				264	
募集定員	291	283	285	*271	
採用実績	236	264	254		

※ 募集定員の下限を2人にするための調整(1人→2人)及び新規指定病院の定員(2人)は上限に上乗せ。

### 3. 平成28年度の対応について

#### ○ 以下の事情を考慮し、対応してはどうか。

- ・ 平成27年度の都道府県調整枠について、地方を中心に20の県が都道府県調整枠を各病院に配分しきれず、上限と募集定員との差が361となっている。
- ・ 平成28年度の上限を、研修希望者推計数(変更後)の1.18倍に、上記の上限と募集定員との差361を加えて算出する場合には、その361の範囲内で調整することとしてはどうか(1.18倍となる試算を崩さない)。

#### <対応する場合の案>

##### ○ 案の1

直近の採用実績を上限とする特例を平成28年度について実施し(平成28年度+11)、その際、医師不足地域に配慮して、次の特例も設ける。

なお、平成29年度は、その時の状況を踏まえ、改めて検討を行う。

##### (医師不足地域特例)

京都府のように、上限と直近の採用実績にほとんど差がない場合、医師不足地域<sup>※1</sup>における臨床研修病院の定員を増員<sup>※2</sup>(維持)することが困難となるため、配布先を医師不足地域に限定した定員枠(+5<sup>※3</sup>)を加える。

※1 人口10万人当り医師数が全国平均以下となる二次医療圏(=京都・乙訓医療圏以外)

※2 京都府からは、特に北部地域の病院において、研修医の段階から地域医療の魅力を学び、将来、自らの意思で地域医療に貢献する医師を育成するために定員を増やしたいとの要望を受けている。

※3 医師不足地域のうち、京都市へのアクセスに制約が大きい丹後、中丹、南丹の二次医療圏に6つの臨床研修病院が所在することを踏まえ設定。

##### ○ 案の2

平成28年度以降、上限が計算値に一致するよう着実に削減する。

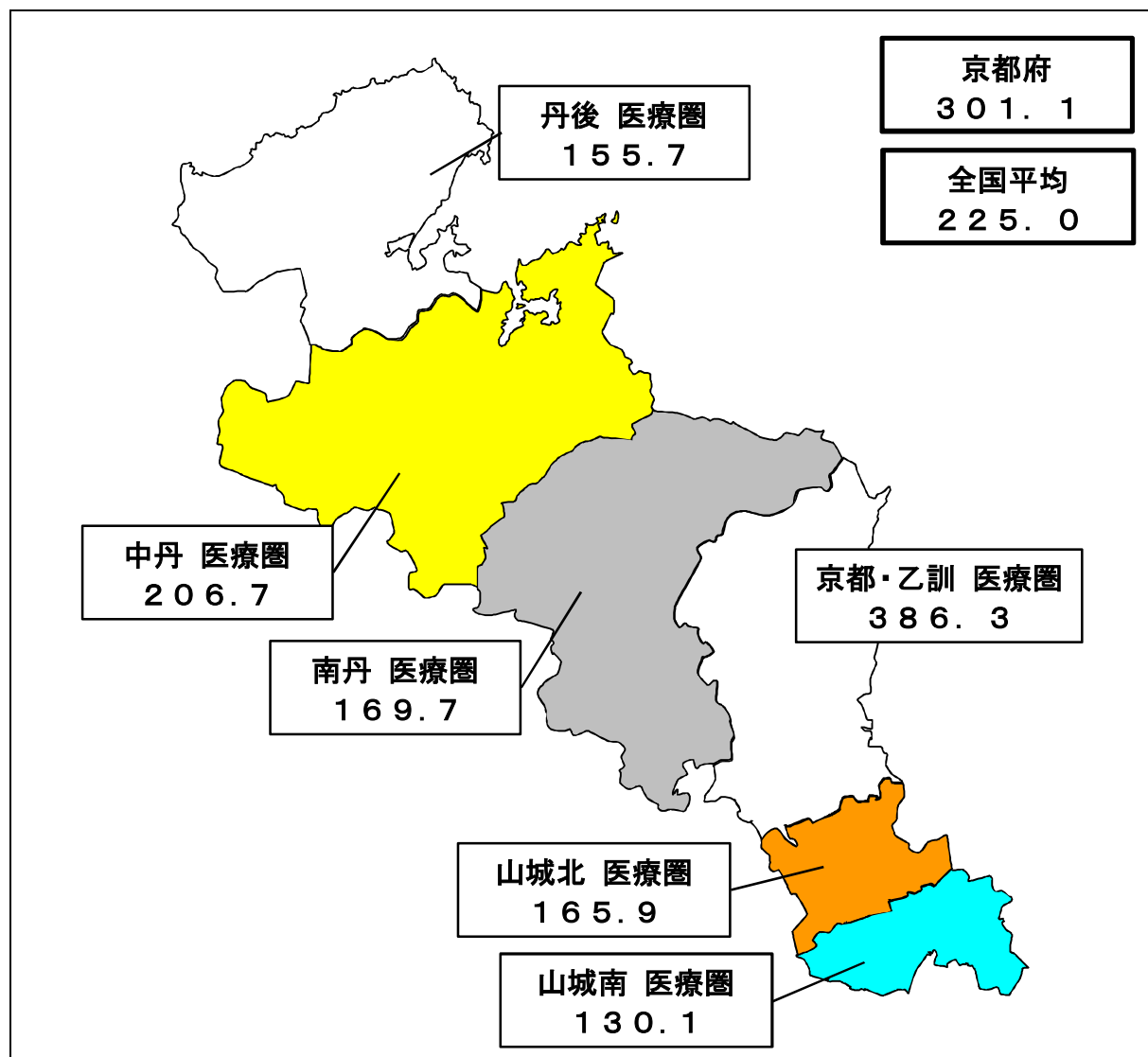
(例:平成28年度+10、平成29年度+5、平成30年度+0)

その際、医師不足地域に配慮して、上記と同様に医師不足地域特例を設ける。

	実績				(案2)		
研修年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
計算値				244	243		
特例分				+20	+10	+5	+0
上限				264	253		
募集定員	291	283	285	※4271			
採用実績	236	264	254				

※4 募集定員の下限を2人にするための調整(1人→2人)及び新規指定病院の定員(2人)は上限に上乗せ。

(参考1)京都府の二次医療圏別人口10万人当たり医師数



都道府県	二次医療圏	人口(人)	医師数(人)	人口10万人当たり 医師数
全国		128,373,879	288,850	225.0
京都府		2,587,129	7,789	301.1
	丹後	105,943	165	155.7
	中丹	205,082	424	206.7
	南丹	142,578	242	169.7
	京都・乙訓	1,570,179	6,066	386.3
	山城北	444,971	738	165.9
	山城南	118,376	154	130.1

※ 人口は、総務省自治行政局「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数  
(平成25年3月31日現在)」

※ 二次医療圏及び市町村ごとの医師数は、厚生労働省「平成24年医師・歯科医師・  
薬剤師調査(H24.12.31現在)」より(医療施設の従事者総数を使用)

(参考2)京都府内の臨床研修病院における募集定員及び採用実績

病院名	二次医療圏	所在 市区町村	26年度 募集定員	26年度 採用実績	27年度 募集定員
医療法人医仁会 武田総合病院	京都・乙訓	京都市	8	3	7
国立病院機構 京都医療センター	京都・乙訓	京都市	10	10	10
京都市立病院	京都・乙訓	京都市	14	12	13
京都第一赤十字病院	京都・乙訓	京都市	14	13	13
京都第二赤十字病院	京都・乙訓	京都市	18	18	16
京都第二赤十字病院(小・産)	京都・乙訓	京都市	4	2	4
地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター	京都・乙訓	京都市	3	2	2
洛和会音羽病院	京都・乙訓	京都市	10	10	10
京都桂病院	京都・乙訓	京都市	9	4	7
京都大学医学部附属病院	京都・乙訓	京都市	80	77	78
京都大学医学部附属病院(小・産)	京都・乙訓	京都市	4	3	4
京都府立医科大学附属病院	京都・乙訓	京都市	60	56	60
京都府立医科大学附属病院(小・産)	京都・乙訓	京都市	4	4	4
京都民医連中央病院	京都・乙訓	京都市	6	6	6
医療法人財団康生会 武田病院	京都・乙訓	京都市	4	3	3
洛和会丸太町病院	京都・乙訓	京都市	2	1	2
特定医療法人健康会 新京都南病院	京都・乙訓	京都市	2	2	2
恩賜財団済生会 京都府病院	京都・乙訓	長岡京市	2	2	2
京都府立医科大学附属 北部医療センター	丹後	与謝野町	2	2	2
綾部市立病院	中丹	綾部市	3	2	2
市立福知山市民病院	中丹	福知山市	4	4	4
国立病院機構 舞鶴医療センター	中丹	舞鶴市	2	0	2
国家公務員共済組合連合会 舞鶴共済病院	中丹	舞鶴市	2	2	2
公立南丹病院	南丹	南丹市	5	4	4
医療法人徳洲会 宇治徳洲会病院	山城北	宇治市	9	8	9
社会医療法人岡本病院(財団) 第二岡本総合病院	山城北	宇治市	4	4	3
合計			285	254	271

二次医療圏で  
みたときの  
医師不足地域